

国語チャレンジテスト〈2〉 ～問題用紙～ (解答時間の目安…20分)

1

一 次の1から3までの文の——部の漢字の読みを、ひらがなでいねいに書きましよう。

- 1 家と駅とを往復する。
- 2 古代生物の子孫。
- 3 余分な手間を省く。

二 次の1から3までの文の——部のひらがなを、漢字でいねいに書きましよう。

- 1 いしやか弁護士になりたい。
- 2 友達の意見にさんせいする。
- 3 合同練習の機会をもうける。

2

次の一はことわざの意味として、二は意味が似ている言葉として最も適切なものを、1から4までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 一 「石橋をたたいて渡る」
- 1 用心に用心を重ねて取り組むこと。
  - 2 失敗をおそれずやってみること。
  - 3 相手の歩調に合わせること。
  - 4 いち早く動いて好結果を得ること。

二 「花を持たせる」

- 1 顔を出す
- 2 顔を合わせる
- 3 顔をつなぐ
- 4 顔を立てる

3

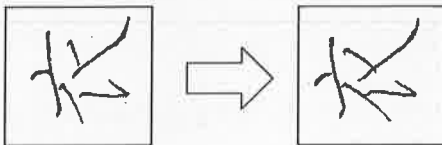
次の( )に入る言葉として適切でないものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

( ) 作業が進まない。

- 1 少しも
- 2 ようやく
- 3 案の定<sup>どき</sup>
- 4 思いのほか

4

次は、花田さんが一回めに書いた文字(上)と二回めに書いた文字(下)です。二回めを書くときに、花田さんが注意したところとして最も適切なものを、あとの1から3までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。



- 1 横画の長さや方向
- 2 左はらいの長さや方向
- 3 右はらいの長さや方向

5 高島さんは、五年生のときから入っている放送委員会のことを文章に書きました。読み直したあと、三つめの文を二つの文に分けて書き直すことにしました。あとの（ ）に入る言葉として適切なものをひらがな三字で書きましょう。

【文章の一部】

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任せられることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていた。（ ）、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

6 小島さんは、科学クラブで「べっこうあめ作り」をして、その感想を学級の友達に伝えました。そのとき、「作り方を分かりやすく教えてほしい。」と言われたので、Aの感想をもとに、Bの説明書を書きました。Bの「3 作り方」の **ア** と **イ** に入る文をAの中の言葉を使って書きましょう。

A

べっこうあめを作った時の感想

科学クラブのみんなで、べっこうあめを作りました。とてもおもしろかったです。まず、砂糖と水をなべに入れて、わりばしでかきまぜながら、火にかけてきました。きつね色になった時に、火を消しました。こげなくてよかったです。次に、アルミケースにたたりました。とてもおいしそうでした。あとは、つまようじを付けてでき上がりです。  
べっこうあめは熱かったので、やけどしそうでした。…



B

べっこうあめの作り方

- 1 材料 砂糖 100g、水 80ml
- 2 準備するもの なべ、ガスコンロ、わりばし、アルミケース、つまようじ
- 3 作り方
- ① 砂糖と水をなべに入れ、わりばしでかきまぜながら、火にかける。
- ②
- ③
- ④ つまようじを付ける。  
※注意…べっこうあめは熱くなるので、やけどをしないように気を付けること。

7 小野さんの学校では、五年生になると登山に行きます。六年生の小野さんは、去年の登山の経験を五年生に話すために、次のアからエのカードを用意しました。小野さんは、実際にはどのように組み立てて話したのでしょうか。実際に話した内容に合わせて、四枚のカードを順番に並べかえ、その記号を書きましょう。

【用意したカード】

ア 質問を受ける

イ 登山前の体力づくり

ウ 登山の楽しさ

エ 服そうや準備物

【小野さんが実際に話した内容】

さわやかな五月、山に登ると風がとても気持ちよかったです。歩いていると、美しい花やめずらしいチョウに出会い、みんな喜んでいました。山の頂上まで登り着いたあとに食べたお弁当は、とてもおいしかったです。

わたしたちは、登山に向けて、一か月前から毎日運動場を走りました。みなさんも、取り組んでみてはどうでしょうか。

登山のときは、虫にさされたり、木の枝だけがをしたりしないように、長そでの服と長ズボンで参加するとよいと思います。ぼうしやタオルもわすれないてください。

みなさん、分からないことがあれば、何でも聞いてください。



8 青木さんたち図書委員会では、読書活動をより活発にするためのアイデアについて、一人一人が提案カードにまとめることにしました。次は、青木さんの下書きと下書きを書き直したものです。【下書きを書き直したもの】の（ ）に当てはまる文を、あとの〈条件〉に合わせて書きましょう。

【下書き】

わたしは、一年生から六年生まで一人一人に「読書通帳」を配って、毎日読んだ本のページ数を記録してもらい、通帳の数字がどんどん増えていく楽しさを味わってもらう「読書貯金」という方法をすすめることで、学校全体の読書量が増やせると思います。



【下書きを書き直したもの】

( )  
これは、一年生から六年生まで一人一人に「読書通帳」を配って、毎日読んだ本のページ数を記録してもらおうというものです。みんなに、通帳の数字がどんどん増えていく楽しさを味わってもらうことで、学校全体の読書量が増やせると思います。

〈条件〉

- 「提案」という言葉を使って書くこと。
- 十五字以上、二十五字以内にまとめて書くこと。

9 次は、山野さんが興味をもった資料です。これを読んで、あとの問いに答えましょ

【資料】

脳を調べてみると、神経細胞があみの目のようにつながり、ネットワークを作っていることが分かります。このネットワークが複雑であればあるほど、人は豊かに考えることができるといえるでしょう。それはちょうど一つのパソコンからインターネットを通して、世界中の情報を得ることができる仕組みとよく似ています。

会話の場面で、脳の中がどうなっているかについて調べたところ、「話上手」と言われる人は、言葉に関係する部分が活発に働いていました。そのような人は、どうやら思い付いたことをそのまま話すのではなく、内容を考え言葉を選びながら話す習慣を身に付けているようです。

※ 神経細胞…情報を伝える働きをもつ細胞。 ※ ネットワーク…次々と情報を伝える仕組み。

一 線部「このネットワーク」とは、どのようなネットワークですか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 神経細胞のネットワーク
- 2 パソコンのネットワーク
- 3 インターネットのネットワーク
- 4 世界中のネットワーク

二 山野さんは、【資料】を読んで考えたことを、ノートに次のようにまとめました。  
( )に入る言葉として最も適切なものを、【資料】の中から十五字で書きぬきましょう。

同じクラスの松友さんは、会話のとき、いつも( )ことができていると思う。わたしも、なるべく早くそれができるようになりたい。

(これで問題は終わりです。)

国語予テスト(2) 正答例

1

一	1	おらぶく	二	1	医者
2		しそん	2		賛成
3		はぶく	3		設(ける)

2

一	1	二	4
---	---	---	---

3

2
---

4

2
---

5

だ	か	ら	(その他の例) そこで、それで
---	---	---	-----------------

6

ア	(例) きつね色になったら、火を消す。
イ	(例) アルミケースにたらず。

7

(ウ)	→	(イ)	→	(エ)	→	(ア)
-----	---	-----	---	-----	---	-----

8

(例1) わたしは、「読書貯金」という方法を提案します。(23字)
(例2) わたしが提案するのは「読書貯金」です。(19字)

9

一	1
---	---

二	内	容	を	考	え	言	葉	を	選	び	な	が	ら	話	す
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

1

- 一 次の1から3までの文の——部の漢字の読みを、ひらがなでいねいに書きましよう。
- 1 険しい山道を歩く。
  - 2 めずらしい植物を採集する。
  - 3 本の整理の仕事を任せる。
- 二 次の1から3までの文の——部のひらがなを、漢字でいねいに書きましよう。
- 1 勝利をいわう。
  - 2 バスがていしやした。
  - 3 駅まで歩いておうぶくする。

2 次の1、2の言葉を、(例)のように、ローマ字でいねいに書きましよう。

(例) [いぬ]



inu

1 [どんぐり]



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

2 [きって]



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

3 次は、読書について書かれた新聞の【コラム】(筆者自身の思いや考えなどを述べた短い記事)です。この【コラム】は、全体の内容が1から5までのまとまりに分かれています。これをよく読んで、あとの一と二の問いに答えましよう。

【コラム】 記事の中の▶は、まとまりを表す印です。

1▶四月二十三日は「子ども読書の日」。世界では「世界本の日」とも呼ばれる。本とその作者たちを敬うとともに、読書の楽しみを味わう日である。2▶ある作者の言葉に、「一冊の本との出合いがある。出合いはぐうぜんでも、生きる力を与え、目の前の壁を乗り越えさせてくれる本の存在はとても大きいものだ。3▶先日、中学時代に繰り返し読んでいた本を読み返した。やはり、何度読

んでも心に響いた。そして、読んだ後は、「何事もあきらめないぞ。」という思いがわいてきた。4▶最近、読書離れが問題になっているが、ぜひ読書の楽しみを子ども時代に味わわせたい。読書によって人生を豊かにしてほしい。5▶世界の人々が本について考える日。この日は、みんなが本を手にとって、そこにえがかれる世界にひたってみてはどうだろうか。



一 筆者は、自分の読書体験を交えながら書いています。その体験が書かれているまじまりを、【コラム】の中の1から5までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

二 筆者は、自分の思いや考えを根拠<sup>こんこ</sup>付けるためにある言葉を引用しています。それは、どの言葉ですか。最もふさわしい言葉のはじめの五文字を書きぬきましょう。ただし、句点(。 )や読点(、) 、かぎ(「 」)は字数にふくみません。

4 漢字辞典で次の漢字を調べようと思いますが、読み方も部首も分かりません。効率よく調べるための方法として最もふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

# 称

- 1 部首さくいんのページを見て、「称」の漢字を探す。
- 2 初めのページから、順にめくって「称」の漢字を探す。
- 3 音訓さくいんのページを見て、「ア・あ」から順に「称」の漢字を探す。
- 4 総画さくいんのページを見て、十画の漢字の中から「称」の漢字を探す。

5 次は、代表委員会に出された【美化委員会からの提案の一部】と、それを聞いている六年生代表の【青木さんの心の中の声】です。青木さんの聞き方について説明した文として最もふさわしいものを、あとのアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましょう。

## 【美化委員会からの提案の一部】

最近、校内のよごれが気になります。みなさんは、そうじに一生けん命取り組んでいますか。中には、おしゃべりばかりしている人や取りかかりがおそい人もいます。

そこで美化委員会から、来月の全校美化週間において取り組むことを、次のように提案します。

それは、「さ・し・す・せ・そ」を合い言葉に取り組むことです。

さ ……さつと取りかかり

し ……しずかに

す ……すみずみまで

せ ……せいつぱい

そ ……そうじをしよう

これらを合い言葉に、みんなが力を合わせ、きれいな学校にしていきましょう。

～ (提案が続く。) ～

【青木さんの心の中の声】

低学年にも分かりやすいな。これなら、そうじのときの合い言葉として、おたがいに声をかけ合うことになるだろうから、きっと効果があるなあ。



- ア 自分が予想したとおりかどうかを確かめながら聞いている。
- イ どのようなことをもとにした提案なのかを考えながら聞いている。
- ウ 提案に対して反対の立場に立ち、疑問をもちながら聞いている。
- エ 目標の達成につながる提案であるかを評価しながら聞いている。

6 青山さんは、サクラについて百科事典で調べて分かったことをノートにまとめました。【ノートの一部】の中の **ア**、**イ** に入るふさわしい言葉を【百科事典の記述の一部】の中から、それぞれ **ア** は三文字、**イ** は二文字で書きぬきましょう。

【百科事典の記述の一部】

サクラ 【桜】

サクラは、古くから日本人々に親しまれていて。例えば、サクラの花を見て楽しみ、春の訪れを感じる行事として花見が広く行われている。また、短歌や俳句などの題材としても取り上げられている。

また、サクラは、日常生活の中でも使われている。サクラの葉や花は塩づけにすると、食品として活用できる。塩づけにしたサクラの葉でもちをくるとサクラの花を湯に入れて呼ばれる。そして、塩づけにしたサクラの花を湯に入れて桜湯は、おめでたい出来事があったときなどに飲まれている。また、サクラの樹皮は、皿や茶づつなどの工芸品として使われている。 ～(内容が続く。)～

【ノートの一部】

サクラ 〈桜〉

《 親しまれ方 》

- 花見をしたり、短歌や俳句の題材として取り上げられたりしている。

《 **ア** 方 》

- サクラの葉と花を塩づけにする。( **イ** )  
→ 葉…桜もち、花…桜湯
- サクラの樹皮で、皿や茶づつなどを作る。(工芸品)

7 次は、竹内さんが、自動車工場で見学したことをもとに、分かったことや考えたことを説明した内容の一部です。竹内さんは、説明をどのようにくふうしていますか。最もふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【説明した内容の一部】

わたしは、自動車工場で見学したことの中から、自動車ができるまでの流れについて、分かったことや考えたことを説明します。最初に、自動車ができるまでの流れを、「プレス」、「ようせい」、「とそう」、「組み立て」、「検査」という五つの段階に分け、分かったことを順番に話していきます。そのあと、自分が考えたことをまとめて述べます。まず、「プレス」という段階について話します。 ～(説明が続く。)～



- 1 聞き手に問いかけながら説明している。
- 2 見学に行った理由を最初に説明している。
- 3 話の全体構成を伝えてから説明している。
- 4 工場で見学したことを全部説明している。

8 次は、漢字に興味をもった田中さんが読んだ一つの資料です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料①】

漢字はその成り立ちから、象形文字・指示文字・会意文字・形声文字の四つに分けられます。象形文字は、山の形をかたどって作られた「山」のように、物の形をかたどって表した漢字です。指示文字は、「上」など形に表しにくい事柄を点や線などの印や図形で表した漢字です。会意文字は、木がいつばいある場所を表す「林」や「森」など、二つ以上の漢字を組み合わせて別の新しい意味を表す漢字です。そして、形声文字は、音を表す部分と意味を表す部分を組み合わせて新しい意味を表す漢字です。

例えば、「銅」、「胴」、「洞」という漢字は、「同」と「金」、「月」、「ㇿ」が組み合わさってできており、いずれも「どう」と読むことができます。そして、「金」は「おかね」、「月」は「からだ」、「ㇿ」は「みず」を表します。つまり、これらの漢字は、( )に当たります。

ところで、日本語には、魚の名前を表す漢字がたくさんあります。「鯛」、「秋刀魚」、「鯉」、「鮭」、「鯖」は、「たい」、「さんま」、「かつお」、「まぐろ」、「さば」と読みます。それぞれの漢字の由来を調べてみると、その魚の性質や形・見た目など、いくつかに分類できます。  
 ～(文章が続く。～)

【資料②】

昔、旅人が疲れをいやし一休みするところには、のどのかわきをうるおす水がわき出る泉がありました。泉の意味である「地中からわき出る水」があるところの地名には「泉」「清」などきれいな水を表す漢字が使われています。地名に限らず、様々なものの名前には、その様子や人々の生活にかかわりがある漢字が使われています。

四季の移り変わりにより、色とりどりの姿を見せる日本の自然。自然の変化の美しさを感じ取り表現する感性や、自然と生活とのかかわりの中でわずかなちがいを表現し、生活に生かす知恵は、日本ならではのものであり、すばらしい財産でもあります。

～(文章が続く。～)

一 【資料①】の中の( )に入る言葉として最もふさわしいものを、次のアからエまでのの中から一つ選び、その記号を書きましょう。

ア 象形文字    イ 指示文字    ウ 会意文字    エ 形声文字

二 次は、【資料①】の中の——線部について、田中さんがまとめた表です。この表の中に、「ほかの魚よりも傷みやすい」と言われる「鰯」を加えようと思います。「鰯」が入る分類として最もふさわしいものを、アからエまでのの中から一つ選び、その記号を書きましょう。

《魚を表す漢字の由来(二例)》

分類	漢字	説明
ア 性質	鮪	・「有」には、外側を囲むという意味があり、広い範囲を囲むように泳ぐから。(ほかにも、鮪がほかの魚よりも大きく、存在感が「有る」からなど、諸説がある。)
イ 形・見た目	秋刀魚 鯖	・秋刀魚の細長い形が「刀」にそっくりだから。 ・鯖は、背中に青黒いしまもあるから。
ウ 生息状況	鯛	・鯛は、日本の周囲の海、どこにでもいるから。
エ 加工状況	鰹	・「堅」は、かたいという漢字。鰹を加工して作るかつお節がかたいから。

三 田中さんは、【資料①】と【資料②】を読んで考えたことを、次のようにノートにまとめました。( )に入る言葉としてふさわしいものを【資料②】から二十字で書きぬきましょう。ただし、句点( )や読点( )も字数にふくみます。

周りを海に囲まれた日本では、魚は日本人の生活にとってかかわりが深いものだった。そこで、日本人は、( )を使って、たくさんの魚の名前を表す漢字を使い分けるようになったのだと思う。

これで問題は終わりです。

( ) 組 ( ) 番 名前 ( ) / 18 問

1

一	1	け わ (しい)	二	1	祝 (5)
2		せいしゆう	2		停 車
3		ま か (せる)	3		往 復

2

1 [どんぐり]

donguri

2 [きって]

kitte

3

一	3	二	一	冊	の	本	と
---	---	---	---	---	---	---	---

4

4

5

エ

6

ア 使 わ れ イ 食 品

7

3

8

一	エ	二	ア
---	---	---	---

三	わ	ず	か	な	ち	が	い	を	表	現
	し	、	生	活	に	生	か	す	知	恵